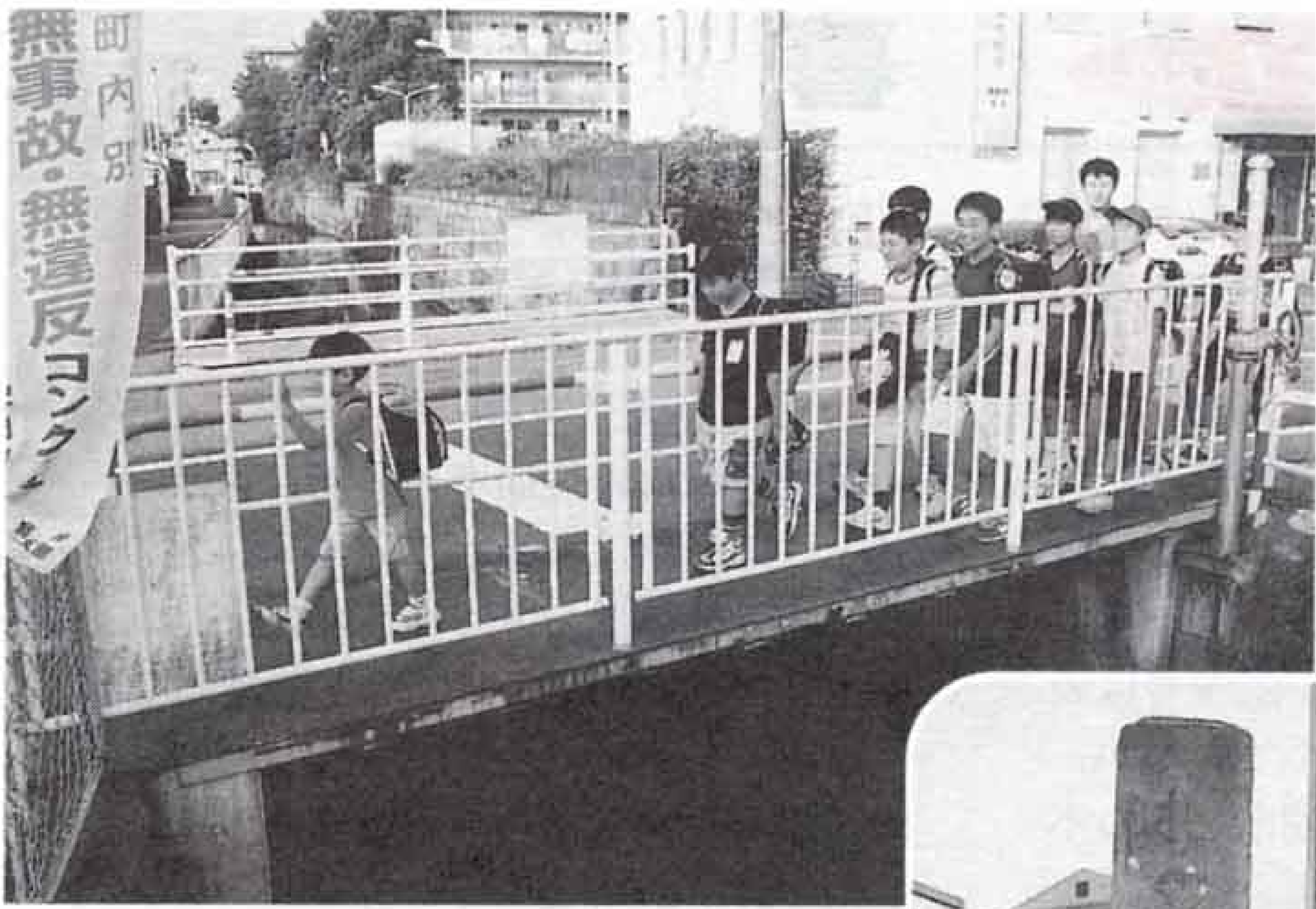


富士の民話 あれこれ

平垣町の

札の辻橋

富士本町通りから旧東海道を西へ四百メートルほど向かうと、長さ五メートル、幅六メートルほどの「札の辻橋」に差し掛かります。今回はこの札の辻橋について紹介します。



▲札の辻橋



▶札の辻跡の碑

札の辻橋は、大正五年三月に竣工されました。橋にはもともと鉄製の立派な欄干がありました。橋にはもともと鉄製の立派な欄干がありましたが、戦争中に、鉄の部分は資源として国に寄付してしまいました。

来年は、東海道宿駅制度が制定されてから四百年目になります。旧東海道の通っている平垣町も、昔から道路はきれいに整備されていました。橋の周辺も、交通量がふえたくらいで、今と昔とはあまり変わっていませんね。

札の辻のいわれも、語り継ぐだけではいつかは忘れられてしまいます。何か形として残るものをつくりたいと思います。昭和五十年、平垣町の有志一同で、橋のそばに札の辻のいわれを示した「札の辻跡」という石碑を立てました。子供たちにもこの由緒ある「札の辻」のことを伝えていきたいですね。



平垣町にお住まいの
海野 嘉一さん

岩本山を背にした実相寺は、今から八百年ほど前の久安年間(きゆうあんねん)に、鳥羽法王の仰せにより建てられたと言われています。当時は「西に比叡山、東の実相寺」とまでうたわれた、全国でも名高いお寺でした。寺には、四十九院、五百の僧坊があり、何百人もの修行僧が勉強し、ここで生活を送っていました。

昔の実相寺の敷地はとても広く、一方一里(約四キロ)あり、その寺領は南は現在の札の辻橋付近まで及んでいたと言われています。このあたりに実相寺の山門のようなものがあり、お寺に参拝に来た人々がこの付近でお札を買ったことから「札の辻」という名がつけられたようです。

一般的に、「札の辻」とは、制令(禁令)の箇条を記した立札を立てておいた辻のことを言い、現在でも地名として残っているところがあります。



こちら編集室

20世紀最後のとし、30年ぶりに中学の同窓会を開催することになりました。あのころの一中は1学年だけで500人というマンモス校でした。富士市が合併したばかりで、建設中の庁舎を眺めながらよく富士市民歌を歌ったことを思い出します。少子化が進み人口が減少している都市がふえる中、富

士市は市民歌の歌詞にうたわれるように発展し、人口も24万人を突破しました。24万3千人ぐらいをピークに減少すると予測されていますが、これからも富士市が発展し続け、より住みよい街となつてほしいと思います。(富士市民歌のテープと歌詞カードが広報広聴課にありますのでご利用ください。)

人口 239,908人 (前月比+62)
 男 119,441人 (+13)
 女 120,467人 (+49)
 世帯 80,576世帯 (+73) 10月1日現在
 編集・発行 富士市総務部広報広聴課
 〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
 ☎51-0123 ㊚51-1456
 ★10月11日、富士市は人口24万人に到達しました

